畿央大学 看護実践研究センター

Newsletter

30th March 2020

Vol. 1

CONTENTS

看護実践研究センター長挨拶　看護実践研究センター長　山崎　尚美

＜看護実践研究センター開設記念シンポジウム特集＞

シンポジウムの概要

＜各部門の事業報告や来年度の抱負・トピックス＞

認知症ケア部門／地域包括ケア部門／卒後教育部門／国際交流部門

看護実践研究センター長 挨拶

看護実践研究センター長・看護医療学科 教授　山崎 尚美

2019年４月１日に畿央大学の４つ目の付置研究機関となる「看護実践研究センター」が開設されました。看護実践研究センターは、『看護実践研究に関する研究基盤形成および次世代の人材育成』をコンセプトとしています。そして、認知症ケア部門、地域包括ケア部門、助産学部門、卒後教育部門、国際交流部門の５部門により構成され、「建学の精神」である「徳をのばす」「知をみがく」「美をつくる」を基本理念に置き、保健、医療または看護を専門とする職業人および研究者に対して、最新の看護実践に関する情報を提供し、看護実践研究を推進しています。

また、地域住民に対して、保健行動、認知症ケアおよび周産期に関する情報を提供し、研究活動と併せ、今後は地域住民の健康維持に寄与できるよう様々な取り組みを展開することを目指しています。

ここで少し、これからの高齢社会の方向性について述べさせていただきます。昨今の少子高齢化が進んでいる社会の変化とともに、自分らしく幸せに生きるためには、地域社会においては医療職だけにとどまらず、当事者とともに自分のこととして保健・医療・福祉のあり方を創設する時代にパラダイムシフトしています。その時代のニーズに即した看護実践を提供するためには当事者を含めた実践研究や次世代を担う人材の育成（継続教育）は不可欠だと考えます。また、SDGsの観点から「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」を具現化するために、例えば認知症の啓発活動および次世代の人材育成、殊に学部や学科の垣根を超えた横断的にボータレスな学生ボランティアの育成や当事者や地域住民を巻き込んだ地域貢献活動を推進することが必要だと考えます。さらにはSociety5.0の観点からIoTやICTの活用も高齢社会において今後は必須となるでしょう。

そこで、大学研究者による実践研究、大学教員と客員研究員（臨床実践家）による実現可能性の検証、実践研究のアウトカムの検証のための当事者による評価、そしてそれぞれの成果を臨地に還元しフィードバック機能を活用しなから研究を遂行していく必要があります。研究者がそれぞれの専門領域の特性を活かし、「当事者目線」の看護実践および人材育成における研究体制・教育体制を確立することをめざしたプロジェクト研究の発展に寄与したいと考えます。

2019年度は、事業計画に基づいて開設記念シンポジウムの開催および各部門で実践活動を進めてまいりました。2020年度には、学内公募からなる『その人らしく幸せに生きる』ことをめざしたプロジェクト研究の実施を予定しています。

最後に、これからのセンターの運営・活動へのご支援を賜りますとともに、センターの活用していただき、活発な看護実践および研究活動が行われることでさらなるセンターの発展が図れますよう、今後ともよろしくお願い申し上げます。

お問い合わせ

〒635-0832 奈良県北葛城郡広陵町馬見中4-2-2　畿央大学 看護実践研究センター

TEL 0745-54-1601　FAX 0745-54-1600　Mail nprc@kio.ac.jp

看護実践研究センター開設記念シンポジウムを開催

2019年5月19日(日)

冬木記念ホールにて看護実践研究センター開設記念シンポジウムを開催

[第一部] 講演 「意思決定支援コミュニケーションツールの開発」
講師 オーストラリア緩和ケアNP Ms. Julie Paul

[第二部] シンポジウム 「これからの緩和ケアのあり方 –実践者の立場から再考する–」
シンポジスト:看護医療学科3期生／緩和ケア病棟勤務 中嶋 優弥氏　看護医療学科 大友 絵利香 講師
コーディネーター:Ms. Julie Paul

[第三部] 情報交換会(食堂)

2019年4月1日に開設した「看護実践研究センター」のキックオフイベントとなる開設記念シンポジウムを5月19日に開催しました。来賓に公益社団法人奈良県看護協会会長の平葉子様、本学名誉教授の伊藤明子様、愛知県立大学副学長の百瀬由美子様ほか多数お迎えし、さらに約100名の参加者にお越しいただきました。

第一部ではオーストラリアで先駆的に緩和ケアの教育活動をされているジュリー・ポールさんにお越しいただき、アドバンスト・ケア・プランニング(ACP)の意義・あり方・意思決定支援ツールの開発の現状についてご講演いただきました。

第二部では、シンポジストとして緩和ケア病棟に勤務されている卒業生の中嶋優弥さん(看護医療学科3期生)と緩和ケア認定看護師として活動中の看護医療学科講師の大友絵利香さんの二人から病院と施設のそれぞれの立場から認知症の方の緩和ケアの実践について報告していただきました。それぞれの講演の後、参加者の方との質疑応答の時間を持ち、最後にジュリー・ポールさんからシンポジストの実践内容に対するコメントをいただきました。参加者の方からは、看護の力を感じた、ケアの振り返りができた、といった意見も頂戴しました。

第三部ではカトレア食堂で情報交換会を開催いたしました。約40名が一堂に会し、認知症の人を介護する家族、実習施設の指導者様、研修企画者、臨床実践家などの参加者の方々がご活躍されている領域でのご紹介をいただき、互いに交流を深め、終始和やかな雰囲気の会となりました。最後にセンターの各部門担当者が今後の抱負を説明し、閉会となりました。

認知症の方の意思決定支援は、終末期になってからでは困難をきたしますが、ジュリー・ポールさんから意思決定支援の具体例としてメルボルンと日本の「意思決定支援カード」の意義について学ぶことができ、また今後の日豪共同研究企画の紹介がされました。臨床の場から、中嶋さんからは意思決定支援のあり方として「認知症だから何もわからないのではなく、軽度な時期にケア提供者が最大限の工夫をすること、殊に穏やかになることを助けること、そのためには本人に聞くことが大切である」という認知症ケアの基本や、また大友講師からは認定看護師の役割とともに、緩和ケアの実践の中で「特別でない日常の中での死を学ぶ」姿勢を看護師は持つこと、そうすることで認知症高齢者が「大切にされていると実感してもらえる」関わりが重要であることを学びました。

各部門の事業報告や来年度の抱負・トピックス

認知症ケア部門

部門長：看護医療学科 教授 山崎 尚美　副部門長：看護医療学科 准教授 上仲 久

認知症部門では、認知症ケア専門士などの看護職・介護職に対する研修会を5月と10月に奈良県認知症ケア専門士会とともに2回、共催開催しています。

■2019年5月18日（土）　13:00 –16:45
「介護業界への外国人受け入れに関する人材育成のあり方ー認知症の人を支える人材育成ー」
講師：奈良東病院 事務局長 岡田 智幸氏

■2019年10月10日（木）14:50 –17:10
「笑顔で生きるー私たちの希望と願いー」
講師：おれんじドア代表 丹野 智之氏（若年性認知症当事者）
および VR認知症体験

また、次世代の人材育成・認知症啓発活動として、当事者・家族・学生・地域住民・ボランティア・教職員・とともに創る認知症ケアチーム「オレンジプロジェクト：Orange Project 」を学生とともに立ち上げました。

次年度は、Orange Projectのメンバーとともに当事者の方の願いを具現化し、「ボケる（認知症になる）ことを恐れなくてよい社会を創る」ことをめざします。

2020年度は、今年度に引き続き認知症ケアの質の向上を図るための研修会の開催を予定しています。多くの方のご参加をお待ちしています。

■2020年10月9日（金）
「認知症の私が幸せに生きるために（仮）」
講師：まほろば倶楽部 平井 正明氏（若年性認知症当事者）
および VR認知症体験

地域包括ケア部門

部門長：看護医療学科 教授 松本 泉美

地域包括ケア部門では、地域包括ケアに関連する研究などの情報提供により研究の推進に貢献するとともに、看護職者および多職種との連携と協働によるケアシステム構築の支援など、予防を含めた職域や地域健康増進に寄与することを目的にしています。

その事業のひとつとして、2019年10月19日（土）に、畿央祭・ウェルカムキャンパスにて、看護医療学科・看護実践研究センター共催企画として、がんカフェ「きらめき」を開催しました。

「がんになっても働くことについて知ろう・語ろう　―治療と仕事の両立支援―」をテーマに、両立支援コーディネーターの藤吉奈央子先生を講師にお招きし、学生によるアロママッサージの他、がん検診や治療に関する情報提供を行いました。地域の皆様、行政保健師、がんでの治療経験のある方など40名の参加があり、和やかな雰囲気の中で良かったとの感想をいただきました。

2020年度は、11月28（土）～29日（日）に看護研究実践センターの後援を得て、第9回日本産業看護学会学術集会を奈良で初めて開催します。“多様な健康課題を持つ人の「働く」を支える産業看護”をテーマに地域の関連機関と職域との連携のあり方について考える場としたいと思います。産業看護職だけでなく、病院や在宅の看護職および地域の保健師の皆様、関係職種の皆様のご参加をよろしくお願いいたします。

卒後教育部門

部門長：看護医療学科 教授 山本 裕子　副部門長：看護医療学科 准教授 林田 麗

看護専門職では生涯にわたる教育が不可欠です。卒後教育部門はさまざまな現場で活躍する看護医療学科卒業生たちが最先端の知識・技術を習得するための機会を提供すべく活動します。

2019年度は看護実践研究センター開設記念シンポジウム『認知症高齢者の緩和ケア』にシンポジストとして卒業生の中嶋優弥さん（看護医療学科３期生）に参加していただきました。

今後も卒業生による卒業生のためのセミナーを毎年５月の畿桜会（同窓会）総会と同日に開催していきます。　2020年度は５月17日に「臨床判断力を高める！」をテーマにセミナーを開催する予定です。詳細は追ってお知らせいたします。多くの卒業生の皆さまのご協力、ご参加をお願いいたします。

国際交流部門

部門長：看護医療学科 教授 山崎 尚美

国際交流部門では、外部（国外）研修受入れの試行として、韓国から２団体、ベトナムから１団体の研修受け入れ事業を実施いたしました。受け入れ経験から、次年度の受け入れに関する研修依頼申請要項等の整備、システム化を図りました。次年度からは、この申請要項に基づいてグローバルな視点での研修の受け入れをスムーズに展開していきます。

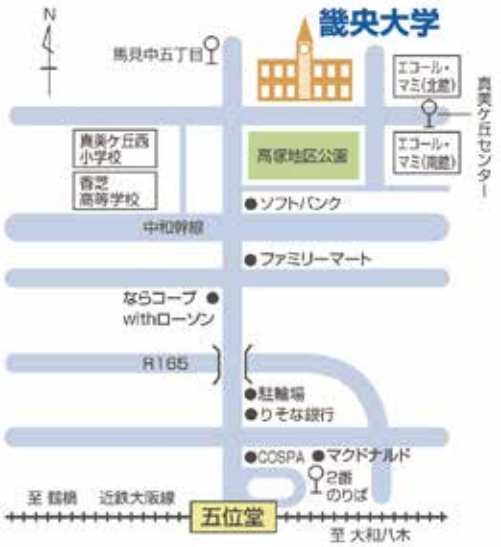
■2019年５月29日（水）
韓国内認知症関連施設の管理者および職員
現場実務者　約30名
日本の認知症ケアシステム講義を聴講し、回復期リハビリテーション病棟などの訪問を含めて４日間の関西滞在中の研修をコーディネートいたしました。

■2019年６月12日（水）・13日（木）
医療法人健和会奈良東病院
ベトナム看護協会会長
カントー医療短期大学教員他　約10名
高齢者看護学のカリキュラム構築および認知症看護、研究活動についての意見交換を行いました。現在、作成中であるベトナムの高齢者看護・介護のテキスト作成についても日本の教材や演習内容にとても関心をもっていて質問されていました。

■2019年12月４日（水）
大韓老人療養病院協会 看護管理者および
看護職　約30名
４日間において、地域包括病棟や訪問看護ステーションなどのコミュニティとの連携を強化している病院、有料老人ホームや回復期リハビリテーション病棟などの訪問研修の企画運営を行いました。韓国では2018年11月から地域連携やコミュニティケアの質の向上を図るための研修が必要であり、国の施策としても推奨されています。そこで５月の研修に続いて看護部長や看護師長、看護師などの看護職を対象とした研修を実施いたしました。

各病院や法人の概要について説明を受けた後に２グループに分かれて院内を見学し、終了後に質疑応答・意見交換の時間を設けました。皆さん、看護職のモチベーションを維持するための方略や高齢者を尊重した病院の理念や看護部の組織について、また認知症ケアの実際などについて積極的に質問をされていました。

アクセス



近鉄大阪線 五位堂駅 徒歩 15 分
バス乗り場：２番
乗車地：五位堂駅　降車地：馬見中五丁目